

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成 29 年 7 月分）

【景況感】

景気は緩やかに回復している。

【製造業】生産、受注は持ち直しの動きが継続している

○製造業は、好調であった4月の反動で輸送用機械（主に自動車産業）の生産が落ち着くなどの動きが見られるが、総じて底堅い動きが見られ、全体としては持ち直しの動きが継続している。

【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、海外製品等との競合、国内需要の低迷、原材料費高騰による収益の圧迫など厳しい状況が継続している。

【設備投資】投資実績は底堅く推移するとともに、投資意欲も改善している

○設備投資は、設備投資意欲が改善し、人手不足への対応のために「生産能力拡大・売上増」、「合理化・省力化」といったニーズが高まる中、国内の金属工作機械受注額が、前年同月比で増加するなど、底堅く推移している。

【個人消費】消費は緩やかに回復している

○個人消費は、大型小売店等の売上が弱含んでいるが、新車販売台数や軽自動車の販売台数は引き続き堅調な推移を見せており、総じて一部で弱さもみられながらも持ち直しの動きが継続している。

【観光】観光客数は増加しているものの、宿泊客数は減少している

○観光は、1ヶ月を通して天候に恵まれたことによる屋外施設利用者数の増加などにより、全体として入込客数が増加となった。一方、宿泊施設は、インバウンドの勢いに陰りがみられることなどを要因として大幅な減少となった。

【資金繰り】資金繰りは改善しているが、小規模企業の倒産が増加傾向にある

○企業の資金繰りは、借入難易感が高止まりし、借入しやすい状況が継続するなか、資金繰りDIも改善しており、事故報告は減少しているが、倒産件数が2年半ぶりの高水準となるなど、経営体力に乏しい小規模企業においては厳しい状況が継続している。

【雇用】雇用情勢の改善とともに、人手不足感が拡大している

○雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、良好に推移しており、総じて県内の雇用情勢は着実に改善している。但し、人材が大手企業に流れ、多くの中小企業では採用難に陥っており、人手不足が慢性化している。